



旧茎崎町の花
ひまわり

茎崎地区区会連合会 VOL: R4 - 2号

区会 くきざき

発行 茎崎地区区会連合会
発行責任者 会長 小原 正彦
編集責任者 副会長 倉本 茂樹



<庁舎跡地>

茎崎庁舎跡地に小売店（食料品、日用品等）が新設されます。

茎崎地区区会連合会顧問 中嶋 修

令和5年オープン予定

- ・バスロータリー
- ・駐車場は現状のままです。

令和4年6月10日地元説明会より

- ◎小売店（食料品、日用品等）を整備運営する民間事業者を公募により選定
- ◎土地（約2,700㎡）は賃貸借とする。

（要望として）

- ・地元農産物を直売できるように。
- ・フリースペースを設置する。
- ・憩いの場、集える場、飲食の場として活用できるように。



<茎崎窓口センター>

茎崎窓口センター（旧保健センター）は、これから改修され、生まれ変わります。

令和7年供用開始予定

- ・従来の保健事業は継続されます。
- ・行政施設として運用されます。

令和4年10月31日意見交換会より

〈市民利用施設としての運用〉

- ◎茎崎地区の新たな市民利用施設として貸出されます。
- ・会議室（大・中・小）
- ・多目的室（会議、体操など）
- ・調理室
- ・和室
- ◎飲食可能なフリースペースを整備し、市民の「憩いの場」として活用できます。

区会運営の状況について

荖崎地区区会連合会顧問 稲川 誠一

I. つくば市区会連合会（事務局：つくば市市民部市民活動課）は、区会運営の状況を把握するための調査を実施した。

荖崎地区は40区会中、37区会から回答（92.5%）があり、総じて活発な活動をしていることが分かった。主な内容は、地区周辺の清掃に始まり、夏祭り、安心・安全。パトロール、消防や防災訓練、各種活動団体との連携などである。一方で単区会が抱える困りごととして、高齢化による退会者の増加、役員のなり手不足、新規自治会加入の減少、ごみの扱い、空き家問題、入会金など多くの課題が出された。

つくば市からの回覧配布業務も、その業務の対価として得られている業務委託料の使途については、役員手当に充当している区会が多く、次いで区会の活動費、積立、集会所の補修にも使われている。将来は、電子回覧などに切り替えて、迅速かつ効率化を目指す試みも実証実験で行われている。

これらの調査結果を踏まえて、荖崎地区区会連合会では、毎年約70%～80%の区長が、新旧交代する状況に鑑み、総会後の役員会議で、身近な諸問題について情報を共有し、単区会の問題（課題）を開示し、解決に向けてヒントになればとの期待から、つくば市市民部市民活動課、荖崎相談センター、社会福祉協議会南支部（荖崎圏域）の皆さんにも加わって頂き、令和4年6月4日（土）「荖崎交流センター」、令和4年10月16日（日）「荖崎保健センター」の2回にわたり意見交換会が行われた。参加者には、つくば市区会連合会のアンケート資料と新聞社が全国からアンケー

トを行った「どうする自治会」6回シリーズと「自治会は今」4回シリーズの記事も参考資料として提示された。

第1回目：議事として、次の項目について意見交換された。

- ① 地区会費、入会金、協賛金、各種の募金活動・徴収方法
- ② 催事の災害保険の付保
- ③ 役員のなり手がいない、退会申し出などの対策等
- ④ ゴミの取り扱い
- ⑤ 葦焼（あしやき）実施
- ⑥ 危険な道路や通学路
- ⑦ 空き家

第2回目：議事として次の項目が挙げられ意見交換された。

- ① 区会活動に関するアンケート調査結果を踏まえて検証 困っていること、課題などへの検証
- ② その他の課題について検証された。

2回の情報交換会を終えた後の動きについては、これまでの歴史、習わしがあり、簡単には変えられない事情があるものの何とか改善していこうと「話し合いの場」が持たれていることは、一定の成果があったものと考えている。



II. また、コロナ禍前を前提とした荖崎地区の子ども会・育成会の現状については、各単区会区長にご協力を頂き、「青少年を育てるつくば市民の会荖崎支部」がアンケート調査を実施した。それによると、少子化と相まって子ども会活動は減少傾向にあり、子どもたちの日常は「家にいる」が圧倒的に多く、次に「塾やおけいこ」と続く。

放課後では、友達と遊ぶことが多いが、近所に公園や広場など安全な場所があるのに外では遊んでいない。休日となると、家族と一緒に過ごす人が多く、休日でのイベント開催に影響が出ている。

活動の内容は、本来なら外に出て自然の環境で遊びたいものと想像されるが、年間を通して、夏まつり（花火大会）、クリスマス会（餅つき）、卒業生を送る会（送別会）など季節の行事に合わせて「お楽しみ会」として開催されている。

参加することによっていろいろな体験ができ、違う学年の友達ができたことをあげている。また、これまで荖崎地区の2つの小学校でも、女性のPTA会長が活躍しており、女性・「お母さん」ならではのきめ細かいところが学校や地域での活動やイベントなどに表れて好評を得ている。今回の調査では99%の保護者（母親）が子ども会・育成会の会長になって活動しており、運営に横の連絡が連携しやすいことがあげられている。

今後、ますます少子化が進み、地域単独で

の活動は難しく、近隣地区と合同での開催と安心・安全をどう守るかという広域的な取り組みも必要になってきている。

荊崎地区全体を見ると、小中学生の登下校の見守りや挨拶運動は活発で、特に小学生に対しては、学校から地域間を付き添いで安全確保の活動を行っている「個人」や「団体」も多くみられる。また学校や地域、諸団体と連携して保護者を含めた活動も始めている。

2年後に学校に導入される「コミュニティスクール」など、地域の役割が大きく変化していく中で、子ども会活動を側面から支援する「つくば市子ども会育成連合会」や「茨城県子ども会育成連合会」が、市町村の行政担当者を集めて行われる研修会なども、広く地域から参加できる仕組みや、その話し合いで得られた情報の開示が望まれるところである。

Ⅲ. 一方、地域内での現状を見ると、オレオレ詐欺などの特殊詐欺が目立ち、荊崎地区でも被害者が出ています。手口は「医療費などが戻る」と偽りATMを操作させるもの、警察官を装いキャッシュカードが不正に使われたなどと偽り、被害者宅からカードをすり替えて盗む手口などが出ている。

また、事実でない情報を名指しで地域内を回覧する誹謗中傷するものも出てきている。

今般、国は、このような悪質な行為を防止するため侮辱罪の改正（令和4年7月7日(木)から施行）を行い厳罰化して対処するとしている。

荊崎地区区会連合会研修会・懇親会報告

荊崎地区区会連合会副会長 倉本 茂樹

荊崎地区区会連合会は、今年度の研修事業として令和4年12月6日(火)午後、区長14名が参加し「防災科学技術研究所」を見学しました。

研修会終了後、お食事処「かつら」において有志による意見交換会・懇親会が開催されました。その概要をご報告します。

○防災科学技術研究所

防災科学技術研究所は、防災に関する科学技術の研究を行う文部科学省所管の国立研究開発法人で、昭和38年4月、当時の科学技術庁の付属機関として東京に設立しました。昭和49年3月「大型降雨実験施設」がつくば市に開設し、昭和58年4月につくば市に移転して現在に至っております。

最初に、本館で研究所の概要ビデオによる説明を受けた後、屋外の「大型耐震実験施設」及び「大型降雨実験施設」を見学し、本館に戻って、希望者数名が「地震ザブトン」により、我が国でこれまで発生した各地の地震を体験しました。

研修会終了後、懇親会会場において、小原会長から「保健センターの有効活用と要望内容」や「つくば市の水道設備の現状」について説明があり、参加の各区長から、区会の現状報告と意見交換が行われました。その後、和やかに懇親を深めて散会しました。



<地震ザブトン体験>

「市長・区長サミット2022」報告

荊崎地区区会連合会会長 小原 正彦

3年振りに、令和5年1月26日(木)午後、イーアスつくばホールで開催されました。今年度のテーマは「持続可能な自治会運営」で出席者は、つくば市から五十嵐市長のほか、数名の市民部市民活動課職員及び荊崎地区等6名の相談センター所長、そしてつくば市区会連合会飯田会長ほか27名の役員でした。

最初に、谷田部地区から「自主防災から始める地域活性化」、桜地区から「桜ニュータウンの課題とまちづくり」と題する事例発表があり、これに対する五十嵐市長から「地区リーダーの資質」や「高齢化が進む中での区会活動」についてコメントがありました。

その後、過日各区会に資料の配布がありました。市長から、「地域社会に貢献する新しい働き方労働者協同組合（ワーカーズコープ）」についての説明の他、来年度の「電動アシスト自転車購入補助金制度」等、市政について紹介がありました。

市長と出席区長との質疑・応答に移り、①空き家対策②通学路の安全対策③女性リーダーの育成④新団地の集会所等について活発に行われました。



<市長挨拶>



<事例発表>

区会連合会の3年間を振り返って

荊崎地区区会連合会副会長 宮澤 正

私が荊崎地区区会連合会の副会長に任命されたのは、令和2年4月でした。同年初頭に中国武漢地方で発生した新型コロナウイルスが瞬く間に全世界に感染拡大し、世間を一変させた時期でした。コロナ感染防止対策として市当局から最初に出されたのが、趣味や集会に対する活動制限と公共施設の利用に関するガイドラインでした。これにより、あらゆる市民活動が大幅に制限され、当然のことながら区会連合会の総会も開催出来なくなり、初めて経験する書面審議となりました。

しかしこの間、多人数による会議や集会は自粛しましたが、連合会としての活動を停止した訳では無く、コロナ感染防止に関するガイドラインを遵守しつつ、区長会に於いては単区会の問題点や困り事を出し合い、対策や解決方法を模索し、その幾つかは問題解決に繋がる成果を上げてきました。一方、行政に対して「荊崎庁舎跡地利用に関する要望書」を取りまとめ市長室まで出向き直接市長へ手渡したり、所謂買い物難民と云われる地区に対する「移動スーパー」の拡充要望や「荊崎地区路線バス実証実験に関する要望」等行政当局に対して数々の要望・提言を行ってきました。中でも私が強く印象に残るのが荊崎庁舎跡地利用に関する対応です。令和2年8月の住民説明会では、保健センターを取り壊した跡地と荊崎庁舎跡地とを一体とした再開発計画でしたが、令和4年6月には庁舎跡地はバスロータリーを現状のまま残置し、残った一部に商業施設を誘致すること、保健センターは取り壊さず改修する方向に大きく変更さ

れました。この様に庁舎跡地の利活用に関しては、荊崎庁舎が解体された平成28年から幾度となく方針が変更され、荊崎地区の住民は行政に翻弄され続けてきました。しかし、連合会としてはこの大変更を容認し、保健センターの改修工事に対してはエレベーター設置をはじめとした15項目の具体的な要望を提出しました。また庁舎跡地の一部には、令和5年晩秋の開店に向けて、食料品を40パーセント置くことを条件としたウエルシアの出店が決まりました。何れにしてもこの3年間、私にとりまして人生最良の体験をさせて頂いたこと、又これら活動の一助として参画出来ました事は、単区会の区長をはじめ小原会長や連合会顧問の皆様のお陰と深く感謝申し上げます。

シニアの生き方紹介シリーズ⑪ 手まりの作成

森の里 南場 順子

私と手まりとの関係が始まったのは、数年前旅先の宿に飾ってあったものと出合った時からです。日本独特の手芸でその地方、地方のかがり方（作り方）があるそうです。帰宅しても手まりのことが気になって、手まり作りに挑戦しようと、教室通いを始めました。教室には若い方、ご年配の方たちが楽しそうに手まりをかがっていました。

手まりは丸い球体面に糸で模様をかかります。手まり芯、土台作りから、なかなか丸くならず苦労しますが、慣れると次第に出来るようになります。次が地割線作りで、土台まりの上に均等に糸を渡します。この地割が大事で、正確でないと、自分の

思っているイメージにはなりません。最後の模様かがりは、地割線の糸をすくいながら丸い球体面に糸をかがるため、やり直しを繰り返しますが、自分の思う模様ができると喜びが倍になります。手まりには沢山のモチーフがあり、草、花、人、動物、三角、四角と無数にあります。

私の住む団地では、秋に文化祭があり、沢山の力作が集まります。私が作った手まりは、飾りのレイアウトとなる他、来場のお子さん達にプレゼントして喜ばれています。最近日本各地の民芸品売り場でも、お土産用を見かけるようになりました。私はうまく行かなくても諦めず、一針一針心を込めて自分らしい手まり作りを楽しんでおります。



<製作中の筆者>



<文化祭展示作品>

編集後記

今号は、荊崎地区の皆さんの関心が高い荊崎庁舎跡地と荊崎窓口センターの今後について、区会運営の状況、3年に亘って活躍された宮澤副会長退任ご挨拶、南場さんの手まり作成等を掲載しました。

今年度3回の発行を予定していましたが、コロナ禍のため2回となってしまいました。来年度は、コロナ禍から解放され3回発行できますように。（編集子）